

お

おことわり “思い” とちがう スレ助言

Keyword : 小さな親切 おおきなお世話, 言葉掛け, 見極め

ある日、広島大学の卒業生で現職教員の凜子（仮名）さんから現場の美術教育に関する書簡（※本書簡は別項〈せ（Page78）〉にも引用）が届きました。同封されていた一葉の「新聞記事（下掲）」の切り抜きも興味深い内容でした。

…（略）最後に、ある新聞記事のコピーを同封します。「みんなの広場」というコーナーの投書欄にあったものです。この九才の女の子に、私は、何て伝えたらよいか、図工ってこういう時間なんだよってしっかり伝えられるようにこれからも図工について勉強していきたいと思います。

乱筆乱文をお許ください。読んでくださってありがとうございます。これから寒くなりますが、どうぞお元気で過ごしてください。

平成二十三年十一月

凜子

以下は、同封されていた投書欄記事です。

毎日新聞（H23/10/30/2011）

自由に絵が描けないかな 小学生 深浦由奈9（福岡市早良区）

私は絵を描いたり、工作をするのが大好きです。でも図工の時間に花の絵を描いていたら、先生が「りんかく線を描きなさい」と言いました。私はシロツメクサを白い絵の具だけで表現したかったので嫌でした。

3年生だった昨年のごことです。運動会の絵を描くことになり、自分が踊っている場面をクローズアップしました。すると先生に「この写真のとおり全身を描きなさい」と言われ、描き直させられました。

絵や工作に関するワークショップなどに参加したときは、自由に絵を描いたり、工作することができます。どうして学校では好きなようにさせてもらえないのですか。人間の顔の上にも花にも、線なんてひとつもありません。人物や動植物は、色合いや光の加減でひとつひとつが引き立って見えるのです。

絵は写真とは違います。自分の想像で描いてもよいと思います。なぜ自由にしたいいけないのでしょうか。私は図工の時間があまり楽しくなくなってきました。

（若元談：わっ?(*° □°)すごい筆力の9歳ですな〜〜）

さて、「これからも図工について勉強していきたい」と意思表示してくれている凜子さんに本書“五七五 de 美術教育”が幾分かでもお役にたてば、極めて貴重な情報提供に対する返礼にもなるのですが…。